

おきたま 社会教育情報

Vol. 131 令和3年6月号

置賜社会教育振興会総会・合同研修会 開催

6月26日(土)飯豊町民総合センターあ～すを会場に令和3年度の置賜社会教育振興会総会・合同研修会を開催しました。総会では、会長に宇山栄一氏、副会長に加藤俊昭氏、稲月美津子氏、大村亨夫氏、監事に横山昇氏、黒澤哲人氏、塚原明広氏が再選されました。また、副会長の八木孝一氏が昨年度をもって退任されました。これまで置賜の社会教育を牽引していただきありがとうございました。今後も新型コロナウイルス感染症に負けることなく、宇山会長のもとに置賜は一つを掲げ、社会教育のさらなる発展と振興に尽力していきます。

その後の合同研修会では、NPO法人BONDプロジェクト代表の橘ジュン氏を講師に「言葉にできない生きづらさを抱える10代の子どもたち～地域で寄り添い支えるために必要なこと～」と題してオンラインで講演をいただきました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になったため、2年越しの開催となりました。参加者からは「正直、中々身近に感じる事ができていませんでしたが、この度のお話を聞き、これまでに比べて身近に感じる事ができました。」「まずは相談する居場所、体制、受ける者のスキルの向上、そして相談から支援につなげることをより意識していくことをまずやっていきたいと思いました。」「居場所、信用・本心を吐露できる大人がいることの大切さを改めて確信しました。」といった多くの感想をいただきました。



また、「置賜の各市町において青少年育成、社会教育に携わっている皆さんがこのように一堂に会して研修することは大変意味のあることと思います。志を同じにする仲間がいることを改めて感じ、頑張っていこうと思えるからです。」という感想もいただきました。

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、このように研修会を行えたことにご協力していただいた皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、このように研修会を行えたことにご協力していただいた皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

置賜地区家庭教育アドバイザーを紹介します

※家庭教育アドバイザーは、家庭教育に関する講演の他、要請に応じて出向き、参加者同士の交流を図りながら学ぶ楽しさを味わえるような講座や相談活動も行います。お気軽にお問い合わせください。



大村 亨夫 氏

学校教育と社会教育の両方に携わってきた経験から学校・家庭・地域のつなぎ役として講演します。



高橋まゆみ 氏

エッセイスト。「言葉の力」「話し方」「食の力」「朗読」などをテーマに食育、読育等についての講演を行います。



黒田 三佳 氏

日本航空国際線乗務員勤務を経て、米沢に移住。「居心地のよい“共育な”子育て」等に関する講演を行います。



小野 卓也 氏

住職を務めながら「主夫」として3人の子育て中。心の健康やストレス解消、父親の育児等について講演を行います。



高瀬 尚美 氏

現職の保育士としての経験から、親子の関わりや家庭の大切さを、読み聞かせ・触れ合い遊びを交えながら講演します。

置賜の青少年ボランティアについて考える

5月31日（月）、令和3年度地域青少年ボランティア活動推進事業の柱である第1回置賜地区青少年教育推進会議がオンラインにて開催されました。この会議は、各市町の青少年教育担当者や置賜地区の青年代表（アドバイザー）が意見を交換することで、置賜地区の青少年ボランティアの活動を把握し啓発を図ること、青少年の地域参画への当事者意識の涵養を図ることなどをねらいとしています。

コロナウイルス感染症対策としてオンライン（Zoom）での開催となりましたが、各市町担当者からは「高校生や若者が気軽にボランティアに参加できる環境を作っていきたい。」「各市町で行われているボランティアサークルの窓口をデータ化してみてもどうか。」など、昨年度の本会議で出された課題に対する解決策などの意見がたくさん出されました。また、山形県青年の家の柴田勲研修主査から『青少年ボランティアの活動意義とねらいについて』と題し、置賜地区の担当者が同じ目線で青少年ボランティアを推進できるよう講話をいただきました。

今年度、置賜地区からは4名の方に推進会議のアドバイザー委嘱をさせていただきました。様々な角度からのご意見をいただくことで、令和3年度の置賜地区青少年ボランティア活動推進事業をより活発に進めていきたいと考えております。

アドバイザーの皆様

菊地 慶子氏（南陽市）
鈴木 政輝氏（長井市）
小関 弘成氏（米沢市）
大地浩太郎氏（高島町）



子ども達の放課後の活動にバリエーションを

6月4日（金）、長井市の「中央コミュニティセンターふらり」を会場に、令和3年度第1回置賜地区放課後子ども総合プラン指導者研修会が行われました。第1回目の研修会では、放課後子ども教室、放課後児童クラブの職員や各市町の社会教育関係者（主に経験年数が少ない初任者）を対象に、実践的な活動の紹介や職員のスキルアップをねらいとした実技研修を行いました。

事前の検温やチェック表の提出、会場の念入りな消毒や換気など、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行いながら「昆虫ステンドペーパーをつくろう」、「ボードゲームで運動遊び」、「身近な材料でリサイクル工作」の3つの講座が開かれました。大きな声を出す活動や、友達と接触する活動が制限される中、すぐにでも活用できそうな内容の講座だったこともあり、参加者の皆様からは大変好評をいただきました。第2回目の研修会については、9月16日（木）、「白鷹町文化交流センターあゆむ」を会場に、講演会を開催する予定です。



～放課後子ども教室とは～

地域学校協働活動の一環として、地域の大人が子供に関わることによる地域活性の場として設定されています。子ども達のスポーツ・文化等の体験活動、交流活動、学習活動の場としての役割を担います。対象は全ての小学生で、青年、高齢者、退職教員など様々な大人が指導者やボランティアとして関わります。学校のほか、公民館など地域の施設を会場に行われています。

※本情報紙の本文は、UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体を使用しております。

【お問合せ先：置賜教育事務所社会教育課 TEL 0238(88)8242】